

新「愛宕山まちづくりプラン」  
—岩国の新たな発展のために—

愛宕山開発は、良好なまちづくりを目的としたものである。現在、収支見込みが厳しく行き詰っているが、視点を変えれば、市街地の真ん中に位置する東京ドーム15個分にも相当する広大な開発地は、我々に残された最後の優良な資産である。米軍基地に提供するのは、もったいない。

市民の英知を結集してその有効活用を図り、岩国市の発展の礎とするために新「愛宕山まちづくりプラン」を提案する。

1. 新たな活用方法

当初の愛宕山開発事業の規模を縮小してでも、その目的を達成するため住宅団地を造成する。環境に配慮した住宅のモデル地区とする。

移転が決まっている岩国医療センターと連携する高度の医療福祉施設の整備を行う。

太陽光発電等の環境ビジネスを誘致する。

具体的な活用計画の策定に当たっては、広く市民の意見を募り、真に市民の望むまちづくりを行う。

2. 開発の手法と財源

土地を国に売却するのではなく、当初の事業計画にある通り、県と市が主体となり事業を行う。

財源の一部として、防衛省など国の補助金を充てる。

建設工事は、地元企業に優先発注する。

以上により、愛宕山開発事業の所期の目的に沿ったまちづくりが実現され、その財源手当てもできる。さらに、開発段階から地元経済への大きな波及効果や雇用の大幅な増加が見込まれ、その後の税収増加にもつながるなど、一石二鳥、三鳥の効果期待できる。

平成22年3月  
愛宕山を守る市民連絡協議会  
世話人代表 岡村 寛